



## 「春、巣立ちの時」 ～卒業生よ、幸多かれ～



校長 駒宮 恵美子

少しずつではありますが、春の柔らかい空気を感じる季節となりました。

3月は、別れの季節です。これまで学校のリーダーとしてさまざまな場面で活躍してくれた6年生が本日、卒業となります。卒業生のこれからの人生に幸多かれと願います。

### 式辞

春の柔らかな日差しに包まれ、校庭の木々にも新たな息吹が感じられる今日の良き日、羽生市立新郷第二小学校の卒業式を挙げていきますことを大変、うれしく思います。本日は、ご多用のところ、羽生市市長様、羽生市議会議長様、羽生市教育委員会教育長様をはじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り、誠にありがとうございます。日頃より、本校の教育活動に対し、温かいご理解と力強いご支援をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんがこの新郷第二小学校に入学したのは、今から6年前の春でした。しかし、その年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、入学して間もなく学校が休校となりました。楽しみにしていた学校生活は突然止まり、友だちと会うことも、教室で学ぶこともできない、不安と戸惑いの中でのスタートでした。

「いつ学校に行けるのだろう」「いつ友達と会えるのだろう」そんな思いを抱えながら、みなさんは家庭での学習や限られた交流の中で、日々を過ごしてきました。

小学校生活の第一歩が、このような状況から始まったことは、皆さんにとって、決して忘れることのない経験であったと思います。やがて、学校が再開してからも、マスク越しの生活、行事の中止や縮小など制限の多い学校生活が続きました。

(中略)

ここで、皆さんにはなむけの言葉として「艱難汝を玉にす」という言葉を送ります。これは、人は困難や苦しみを乗り越えることで磨かれ、立派な人間になっていくという意味です。振り返ってみると、皆さんの6年間は、まさにこの言葉通りでした。思い通りにいかない日々、不安や我慢の連続、その一つ一つの艱難が、皆さんをやさしく、強く、そして思いやりのある人へと磨いてきました。

(中略)

どうぞ、これからも心と体の健康に気をつけて過ごしてください。

以上 卒業生16名の希望にあふれた前途を祝しまして、式辞といたします。



令和8年3月24日

羽生市立新郷第二小学校長 駒宮 恵美子

これからも新郷第二小学校の良き伝統を継承しつつ、さらによりよい教育活動が展開できますよう職員一同、尽力してまいります。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。